



Jun 2001 No. 32

(本部事務局)(財)日本特産農作物種苗協会内 〒107-0052 港区赤坂 2-4-1

(つくば事務所) 農業情報利用研究会内 JRTつくば事務所

〒305-0034 茨城県つくば市小野崎 143-3

TEL 0298-56-8708 FAX 0298-56-0024

<http://www.jrt.gr.jp>

目次

【事務局より】第5回総会の概要	堺田 輝也	1頁
【事務局より】JRT 会員専用ホームページ開設のお知らせ	中江 拓司	6頁
沖縄県読谷村に生イモ本州出荷施設(蒸熱処理)が完成、初出荷	梅村 芳樹	7頁
宇和海民俗誌のホームページ	矢野 哲男	7頁
甘しょ品種「クリマサリ」	矢野 哲男	8頁

第5回総会の概要

日本いも類研究会事務局 堺田 輝也

3月9日(金)、第5回日本いも類研究会総会が南青山会館で開催されました。

会員の皆様への開催案内がやや遅れたこともあり、参集状況について心配をしましたが、当日は92名の参加をいただき事務局一同胸をなでおろしたところです。

今回も昨年同様に丸1日をかけ、最近のタイムリーな話題を中心に、レポート、パネルディスカッションと盛りだくさんの内容で実施いたしました。

午前の部では、梅村会長の挨拶、農林水産省の小山特産振興課長の挨拶に続いて、農業研究センター(現 独立行政法人農業技術研究機構作物研究所)の中谷氏から国際熱帯いも類学会シンポジウムの開催結果について、横浜商品取引所の野村事務局長から先物取引市場への食用馬鈴しょの上場の経緯とねらいについて、九州農業試験場(現 独立行政法人農業技術研究機構九州沖縄農業研究センター)の山川氏から最近の甘しょの品種開発状況について報告をいただきました。

午後の部では、(有)菊水堂の岩井氏から日本におけるポテトチップスの歴史と現状について、日本食品開発促進(株)の小松氏から中国のサツマイモ事情について、(株)ジャパンポテトの安田氏からインターネットを通じた馬鈴しょ新品种のマーケティングについて、ホクレン農業総合研究所の安田氏からポテトチップ用馬鈴しょ新品种P982の開発について報告をいただきました。また、兵庫県尼崎市で「尼いも」の復活再生に取り組まれている「兵庫県尼いも倶楽部」代表の横山氏からその活動内容について説明をいただき、本総会をきっかけに新たな会員の輪を広げることができました。

レポートに引き続いては、米司氏((有)米司農場)、川端氏(ホクレン販売統括本部園芸販売室)、斉藤(喜代美)氏(サイトー青果(株))、松田氏((株)ポテトデリカ)、根岸氏(女子栄養大学栄養科学研究所)の各氏により、馬鈴しょの生産から流通、加工、消費にいたるまで、それぞれの立場、仕事を通じて日頃感じられている問題について激論をかわしていただきました。(コーディネーター:田中氏(カルビーポテト(株)))

事務局からは、12年度決算見込みと13年度事業計画、新役員、新会則について説明・提案を行い、全員の賛成により了承されました。役員のうち幹事については、林氏(上武大学商学部)、小巻氏(内閣府総合科学技術会議)にかわり岩井氏((有)菊水堂)、中谷氏(独立行政法人農業技術研究機構作物

研究所)に就任いただき、会計監査については、岩井氏(同上)にかわり安田氏((株)ジャパポテト)に就任いただくこととなりました。また、研究会会費について、昨年実施したアンケート調査の結果を踏まえ、普通会员:3千円、賛助会員:1口3万円とすることとなりました。

このほか、日本いも類研究会のホームページの改善内容(検索機能の付加、会員専用のホームページ開設)について、実演、説明を行いました。

以上で第5回総会は終了し、引き続きその場で懇親会を行いました。恒例となっている会員の自己紹介、近況報告も交えつつ大変に盛り上がり、終始和やかな雰囲気の中で会員間の交流や情報交換が行われました。

平成12年度事業報告及び収支決算書

1 平成12年度事業報告

(1) いも類の生産、流通、消費に関する資料並びに情報の収集及び提供

ホームページ、メーリングリスト等を新たに導入したサーバーに移行するとともに、一般向けにはJRTWeb上でのキーワード検索機能を、会員向けには過去のメーリングリストの検索機能、画像データのアップロードシステムを導入するなど、システムの機能向上に取り組んだ。

JRTWebの質問箱に寄せられた160件以上の問い合わせに対し、メーリングリストに照会するなどして回答するとともに、「おいもQ&A」のコーナーの解説を充実させた。

じゃがいも及びさつまいものメーリングリストにおいて、メンバー間の情報交流を行うとともに、ここで得られた情報をもとにさつまいもの国内における伝播等に関する現地調査を行い、FAXニュースレターで紹介するなど、情報交流に努めた。

『さつまいもMini白書』について内容を更新・拡充するとともに、英文版を作成した。また、いも類に係る情報を内容としたFAXニュースレターを5回(27号~31号)発行し、会員に配布した。

(2) いも類に関する研究会等の開催及び支援

甘しょ新品種の試験栽培を実施し、サニーレッド、エレガントサマー、ベニオトメ、種子島紫、コガネセンガンの5品種の苗を希望者(約350名、450セット)に提供し、新品種の普及に努めた。

馬鈴しょ新品種の試験栽培を実施し、キタアカリ、とうや、アイノアカ、ワセシロ、ホッカイコガネの5品種の種いもを希望者(約230名、450セット)に提供し、新品種の普及に努めた。

先進国では初となる国際熱帯いも類学会シンポジウムの開催(H12.9.10~16 茨城県つくば市)に対する支援を行うとともに、海外の研究者に対し英文版の『さつまいもMini白書』を配布し、国内の甘しょをめぐる諸情勢について紹介した。

全国農業協同組合連合会が開催した「いも類の新規用途開発・連携強化シンポジウム、試食会」(H12.11.18 東京にて開催)を支援し、甘しょ・馬鈴しょの新品種やその製品、品種に即した調理法等を紹介した。

2 平成12年度収支決算(総会時点見込み)

(収入の部)

(単位:円)

	予算額	決算額	増減	備考
1. 前年度繰越金	893,942	893,942	0	
2. 普通会员会費	600,000	566,000	34,000	283名
3. 賛助会員会費	1,000,000	960,000	40,000	35名
4. 助成金収入	1,000,000	1,000,000	0	情報システム構築等
5. その他収入	0	1,487	1,487	利息等
合計	3,493,942	3,421,429	72,513	

(支出の部)

(単位:円)

	予算額	決算額	増減	備考
事業費	2,830,000	2,136,934	693,066	
1.資料編集・配布費	400,000	48,158	351,482	
・通信運搬費	200,000	48,158	151,482	
・消耗品費	100,000	0	100,000	
・原稿料・編集費	100,000	0	100,000	
2.情報システム構築費	1,980,000	1,570,976	409,024	JSAIへの参加・FAXニュースレター作成
・ネットワーク参加費	380,000	398,000	18,000	及び配送
・通信運搬費	600,000	472,976	127,024	
・いも類情報発信システム構築・運営費	1,000,000	700,000	300,000	
3.研究会費	200,000	217,800	17,800	試験栽培宣伝費等
4.総会費	250,000	300,000	50,000	
管理費	660,000	600,000	60,000	JSAIへの事務局業務委託
1.業務委託費	600,000	600,000	0	
2.通信運搬費	30,000	0	30,000	(事業費の情報システム構築費に計上)
3.消耗品費	30,000	0	30,000	
小計	3,490,000	2,736,934	753,066	
予備費	3,942			
次年度繰越		684,495		
合計	3,493,942	3,421,429	72,513	

平成13年度事業計画及び収支予算書

1 平成13年度事業計画

甘しょ及び馬鈴しょ等のいも類の振興を図るため、いも類に係る諸団体と協力して、消費者、外食、食品加工、市場・流通等の関係者、生産者、学識経験者等の間での情報交流を促進する。

(1) いも類の生産、流通、消費に関する資料並びに情報の収集及び提供

研究会のホームページ(JRTWeb)に寄せられる質問への対応やFAXニュースレターの編集を効率的に実施することができるよう、システムの機能向上を継続する。

隔月を目途にFAXニュースレターを発行するとともに、インターネット環境の整っていない会員などへの情報提供をよりきめ細かく行う。

馬鈴しょ及び甘しょの『Mini白書』について、必要に応じて統計数値や記述内容の見直しを行い、会員他へ配布する。

(2) いも類に関する研究会等の開催及び支援

研究会のネットワークを最大限に活用し、いも類の栄養面や流通等、各種のテーマに関する研究会の開催やこれへの支援、現地調査等に基づく情報交流を行う。

いも類の新品種の試験栽培を継続するとともに、いも類関係者による試食会やサンプル提供、講演等のイベントを支援する。

2 平成13年度収支予算

(収入の部)

(単位:円)

	予算額	前年度予算額	増減	備考
1. 前年度繰越金	684,495	893,942	209,447	
2. 普通会員会費	1,050,000	600,000	450,000	350名
3. 賛助会員会費	1,800,000	1,000,000	800,000	45名
4. 助成金収入	-	1,000,000	1000000	
合計	3,534,495	3,493,942	40,553	

(支出の部)

(単位:円)

	予算額	前年度予算額	増減	備考
事業費	2,400,000	2,830,000	430,000	
1. 資料編集・配布費	400,000	400,000	0	
・通信運搬費	100,000	200,000	100,000	
・消耗品費	100,000	100,000	0	
・原稿料・編集費	200,000	100,000	100,000	
2. 情報システム構築費	1,500,000	1,980,000	480,000	JSAIへの参加及びサーバーの運用、FAX
・ネットワーク参加費	400,000	380,000	20,000	ニュースレター作成及び配送
・通信運搬費	600,000	600,000	0	
・いも類情報発信システム構築・運営費	500,000	1,000,000	500,000	
3. 研究会費	200,000	200,000	0	試験栽培宣伝費等
・試験栽培宣伝費等	100,000	100,000	0	
・業務委託費	100,000	100,000	0	
4. 総会費	300,000	250,000	50,000	
管理費	630,000	660,000	30,000	JSAIへの事務局業務委託
1. 業務委託費	600,000	600,000	0	
2. 通信運搬費	0	30,000	30,000	
3. 消耗品費	30,000	30,000	0	
小計	3,030,000	3,490,000	460,000	
予備費	504,495	3,942	500,553	
合計	3,534,495	3,493,942	40,553	

研究会役員(平成13～14年度)

会長	梅村 芳樹	前北海道農業試験場ばれいしょ研究室長
副会長	井上 浩	川越サツマイモ資料館長
幹事	津久井 亜紀夫	東京家政学院短期大学教授
同	山川 理	独立行政法人農業研究機構九州沖縄農業研究センター 畑作研究部長
同	中谷 誠	独立行政法人農業研究機構作物研究所甘しょ育種研究室長
同	田中 晃	北海道アグリ・フーズ取締役営業部長

同	森 元 幸	独立行政法人農業研究機構北海道農業研究センター 畑作研究部ばれいしょ研究室長
同	菅 原 龍 幸	女子栄養大学食品科学研究室教授
同	岩 井 菊 之	有限会社菊水堂代表取締役
会計監査	安 田 稔	株式会社ジャパンポテト取締役
顧 問	浅 間 和 夫	ホクレン種苗園芸部市場販売課主任技師
同	田 中 智	カルビーポテト株式会社参与
同	中 本 賢	みかど農産株式会社代表取締役
同	斎 藤 興 平	株式会社川小商店代表取締役
同	石 田 善 吾	全国農協食品株式会社代表取締役社長
事務局長	矢 野 勇 夫	日本特産農作物種苗協会専務理事

日本いも類研究会会則(平成 9年3月21日、平成13年3月 9日改正)

第1条 本会は、日本いも類研究会(Japanese Society of Root and Tuber Crops、略称JRT)と称する。

第2条 本会は、事務所を(財)日本特産農作物種苗協会内(東京都千代田区赤坂)に置く。

第3条 本会は、いも類の発展に貢献しようとする者の連携を図り、情報交流を増進することにより、いも類の生産、流通、加工、消費の振興を図ることを目的とする。

第4条 本会は、その目的を達成するため以下の事業を行う。

1. いも類の生産、流通、加工、消費に関する資料並びに情報の収集及び提供
2. いも類に関する研究会等の開催及び支援
3. その他本会の目的達成に必要な事項

第5条 本会を構成する会員は、本会の目的に賛同する個人の普通会员と、法人の賛助会員とし、以下に定める年会費を支払わなければならない。

1. 普通会员 3千円
2. 賛助会員 3万円を1口とし、1口以上

第6条 本会に次の役員を置く。

- 会 長 1名
- 副 会 長 1名
- 幹 事 10名以内
- 会計監査 1名

第7条 会長はこの会を代表し、会務を統轄する。副会長は会長を補佐し、会長に事故あるとき、その職務を代行する。幹事は会務を執行し、会計監査は会務の状況を監査する。

第8条 幹事及び会計監査は、総会において選任し、幹事は会長、副会長を互選する。

- 2 役員任期は原則2ヵ年とし再選を妨げない。
- 3 本会に事務局を置く。また必要に応じて顧問を置くことが出来る。

第9条 総会は毎年1回開催し、会議の議事は出席者の過半数により決定する。必要に応じて臨時総会を開催することが出来る。

第10条 本会の事業年度は毎年4月1日から次年の3月31日までとし、経費は、会費その他の収入をもってこれに充てる。

第11条 この会則の改廃は総会で行い、運営に関して必要な事項は内規で定め、その改廃は幹事会で決定する。

(注) 総会資料については若干の余部がありますので、ご要望の方は下記までご連絡ください。

農林水産省 特産振興課いも類班 小寺

[TEL] 03-3502-8111 内3703 [FAX] 03-3502-8520

JRT 会員専用ホームページ開設のお知らせ

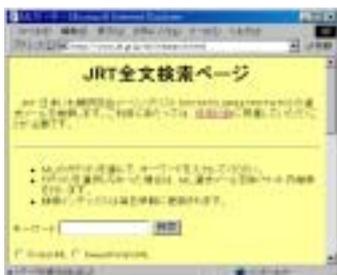
日本いも類研究会事務局 中江 拓司

JRTホームページではいも類の普及情報を一般向けに提供しておりますが、このたび、JRT会員の方だけを対象とした情報提供ページを開設しました。JRT会員の専用ページは次のような情報と機能がありますのでご活用ください。

1. JRTニュースレターの閲覧

JRTニュースレターの参照を会員に限定しました。会員の方は、専用ページからバックナンバーを含め、すべてのニュースレターを閲覧できます。

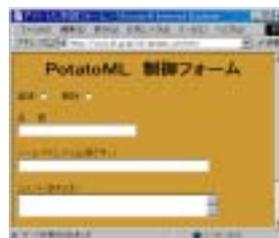
2. メーリングリストでやりとりされた過去の記事の検索



JRT会員間の情報交換の場として運用されているメーリングリスト (ML) は、さつまいも関係で860件、じゃがいも関係で5,700件以上のメールによる情報が蓄積されてきました。このデータからキーワードを入力して、過去のデータを検索することができるようになりました。

3. メーリングリストの参加、解除

メーリングリストへの参加、解除が会員専用ページから簡単に行えるようになりました。



4. 会員間の画像を含む情報交換



運用上の問題から、メーリングリストで画像のやりとりは行われておりませんでした。会員専用ページで、会員の方なら自由に文章や画像を掲載することができるようになりました。

- ・いも類の病害や生育状況について写真を添えて問い合わせ
 - ・いも類イベントのようすなどを写真付きでレポート
- などにご利用いただけるものです。

JRT会員専用ページ <http://www.jrt.gr.jp/ml/index.html>

JRT会員専用ページにアクセスするためには会員認証のためにIDとパスワードが求められます。ID、パスワードについては、<http://www.jrt.gr.jp/faq/sendq.html> に接続後、お名前、メールアドレスなど必要事項を記載してお問い合わせください。

沖縄県読谷村に生イモ本州出荷施設(蒸熱処理)が完成、初出荷

日本いも類研究会 会長 梅村 芳樹

5月24日、特産の「紅イモ」の生イモ出荷が可能になる蒸熱処理施設が完成、祝賀・初荷式が行われ、350kgの「紅イモ」が全国に発送された。読谷村の「紅イモ」は平成2年から振興を進めてきたが、加工品、お菓子などの人気が高く、生イモの供給を待ち望んでいた全国の消費者の要望に応じて日本では初めての蒸熱処理施設が完成、アリモドキゾウムシ、イモゾウムシを完全に殺虫した生イモの出荷が出来るようになった。

施設は完全密封の処理室に500kgのイモを入れ4時間かけて48℃までイモの品温を上げ、48℃を3時間保つ。この間、イモは障害を受けることなくゾウムシは死滅する。商品としての「紅イモ」は死んだゾウムシが入っていても品質が劣化するので処理前の選別は厳しく行われ、処理後のパッキングは完全密封、処理済みの証紙を張って出荷される。24日の初出荷は白皮・紅肉の「備瀬」であったが、紫皮の「宮農」も収穫次第処理し出荷される予定である。

完成・初荷式には国、県、村の他、粟国村長など近隣の関係者が集まり、TVカメラ、新聞社の取材も多くあり、25日の「沖縄タイムス」はトップ面にカラー写真で掲載するほどの関心を集めた。

今後の課題は多くの関係者が指摘するように良質の「紅イモ」を安定生産(供給)することである。そのための技術指導として生産者の畑に試験圃を設置し、23日には6品種の改良法による挿苗を行い、4ヶ月後の収穫を試験することにした。また24日の午前には生産者全員が参加して紫、オレンジ肉色の母本系統から採種した交雑種子を播種、適品種の選抜をする計画である。4ヶ月間で収穫が可能になればゾウムシの被害が軽減されることは判っているので、蒸熱処理施設の効果的な利用が期待できる。

宇和海民俗誌のホームページ

農林水産省統計情報部構造統計課 矢野 哲男

30号の『木村三千人氏の「芋地蔵巡礼」』の冒頭で紹介しました宇和島の宮本春樹さん(宇和島市立宇和海中学校教諭)から、4月14日に「宇和海民俗誌のホームページを作った」との連絡がありました。

宮本さんはお仕事の傍らに郷土史の研究もされていて、ここ2～3年ほど、「耕して天に至る」と言われた段々畑で栽培された「芋」の宇和島地方への伝播について取組まれています。

宇和海民俗誌のホームページには、18世紀末に瀬戸内ルートで琉球芋が伝播したこと、そして幕末から明治初期に高知から画期的な和蘭芋(唐芋、アメリカ芋)が伝播したことなどが詳細に説明されています。興味深いのは、和蘭芋がまずくて最初は嫌がられたものの、収量が五割から倍増、日照に強く、冬の貯蔵に耐えるということから大流行したということです。

国会図書館の古典籍資料室に保存されていた「甘藷の説」や坂井健吉先生の力作「さつまいも」の内容も引用されています。また、干ばつとの永年にわたる闘いの歴史、ネズミとの闘い、段々畑の重労働の状況なども紹介されていて、学術的に見ても非常に興味深い内容に仕上がっています。Url は以下のとおりですので、興味のある方は是非、ご覧ください。

宇和島市立宇和海中学校のホームページ <http://www.uwajima-ehm.ed.jp/uwaumi/>
(左下のメニューから「宇和海民俗誌」に入ることができます)

その後、5月10日の全国農業新聞の8面に、「石垣を積んで天にいたる」「おいしいバレイショ一大産地」という見出しで、愛媛県宇和島市遊水地区水ヶ浦が紹介されました。ここは、上記の『宇和海民俗誌』にも紹介されて、美しい日本の村百選に選ばれた地区です。「段々畑を守る会」が発足し、かつてはサツマイモ、そしてこれからは品質の良いジャガイモの産地として再生を目指すとのこと。「おいも」をめぐる歴史の変遷には本当に興味深いものがあります。

甘しょ品種「クリマサリ」

農林水産省統計情報部構造統計課 矢野 哲男

昨年12月、「神奈川県平塚市の特産品、栗まさりについて知りたい」という問い合わせがありました。「クリマサリ」という名前は、どこかで聞いた覚えはあるという程度でしたので、さっそく手元にあった資料を読んで興味を惹かれました。「畑作物の新品種」(農林水産技術会議事務局 1963,1969,1981)には、以下のように記載されています。

クリマサリ(甘しょ農林21号)
早掘食用としてすぐれた食味を示すが、特に関東南部では8月中旬～9月上・中旬の品質は何れの品種にも見られなかったほど良い食味を示す。しかし、これより遅くなると逐次、品質が低下し、また掘取後変質しやすい。

クリマサリについて質問してきたのは、山田智美さんという平塚農業高校の生徒でした。平塚農業高校では、放課後のクラブ活動で地域の生活や文化に関するテーマを探している中で、クリマサリはとても美味しい芋なのに地元ではほとんど知られていないこと、生産された芋の大半が川越の菓子業者に引き取られているということがわかり、平成9年からクリマサリの良さを知ってもらおうと色々な試みに取り組んできたそうです。

最近では平塚も都市化や高齢化が進み、クリマサリの栽培面積はずいぶん減っているようで、苗は自家増殖で維持されているそうです。

扱にくいけれども味は抜群というクリマサリ。これを加工している菓子業者も「やっぱり、クリマサリじゃないとダメ」とのこと。このような、地域特産的な品種には、是非、頑張ってもらいたいものです。平塚農業高校では、クリマサリを使ったお菓子の開発やクリマサリのPRなどに取り組んでいますので、次号以降、引き続き、レポートしたいと思います。